



ロバート・ヘヨ監督作品

REST IN PIECES

R.I.P.

ジョー・コールマンの肖像

1997/カラー/オーストリア/93分/35mm/1:1.66

◆出演:ジョー・コールマン、ジム・ジャームッシュ、ヘイズル・アドキンス、ハロルド・シェクター ◆監督:ロバート・ヘヨ
◆撮影:ウルフガン・レーナー ◆製作:ハイント・ストゥツァク、マイケル・シーバー ◆脚本:ウォルト・ミシェルソン ◆配給:アップリンク





ジョー・コールマン、彼の絵には何かがある。賛美と崇拜と賞賛。彼はスペースシップの岩窟王なのだ。

チャールズ・マンソン
(カルト教団教祖)

多くのアメリカ人同様、ジョー・コールマンの心は怒りで煮えくり返っている。でも彼は幸運だ。それに対処するいくつかの「クリエイティブ」な方法を見つけることができたからね。そのおかげで彼は穏やかでいられるし、社会生活においても他人と問題なくつきあえる。

ロバート・クラム(漫画家)

僕はジョー・コールマンが好きだ。そして、彼と切っても切り離せないのが彼の絵だ。ジョー・コールマンの一番気に入っている点は、これらの絵がもしれない。その細かい一筋縄でいかない内容に、ジョー・コールマンの本質が全面的に表れている。彼は宗教的なアイコンを描く最後の画家であるかもしれない。

ジム・ジャームッシュ(映画監督)

20世紀末の暗黒大魔王、ジョー・コールマン登場!



1980年代半ばのニューヨークを、体に爆弾を巻き付けて点火したり、二十日ねずみの頭を食いぎざるというショックパフォーマンスで席巻したジョー・コールマンが、遂に映画になって登場する! 1955年11月22日生まれのアメリカ人コールマンは、元コミックアーティストでロバート・クラムの弟子でもあった。その後、過激なパフォーマンスでニューヨーク・アンダーグラウンドシーンを恐怖のどん底に陥れ、

現在は画家として、アート界で世界的に高い評価を得ている。幼い頃から殺人鬼や奇形や異形の人々に限りない愛情を感じていたコールマンは、彼らを題材に多くの絵を描いている。ブラックユーモア的な要素の強い作品のコレクターには、イギー・ポップ、ジョニー・デップ、H.R.ギーガー、そしてこの映画にも登場する友人ジム・ジャームッシュなどがある。

コールマンは、地球を害毒の蔓延する場所とみなしている。都市は悪性の腫瘍であり、ガン細胞のように増殖し続ける悪の中で我々は生きていこう。ニヒリな彼は、もはや自己破壊のルール以外尊重できなくなりつつある人間そのものを、独自のラディカルな思想と行動を通してあらゆる場面で表現する。この作品は、過去のショッキングな映像を盛り込みながら、コールマンの挑発的なアートの真相を探る、刺激的なドキュメンタリーフィルムである。

◆ コールマンの脳髄を解剖する映画

93分の映画の中には、コールマンが愛する人物が数多く登場する。殺人鬼カール・パンズラムや死体愛好者エド・ゲイン、尊敬するチャールズ・マンソンや稀代の奇術師フーディーニ。ランボーにパロウズにフロイト。そして、フリークスやサーカスなどなど。コールマンがインスパイアされたキーワードから連想されるアイテムを追いかけているうちに、アンダーグラウンドな世界に引き込まれていることに気がつくだろう。壊れたロカビリーの天才ヘイズル・アドキンスは、自宅で歌まで歌うというサーピスぶりだ。

◆ 監督ロバート・ベヨ

ブタベストの解剖医のドキュメンタリー『エデンへの道』を美しく静謐な映像で撮り上げたロバート・ベヨが次に選んだ題材がジョー・コールマンだ。1964年ルーマニア生まれの新鋭監督ベヨは、前作に続き、主人公の内部に深く入り込むことに成功した。コールマンの心の奥に広がる世界を丁寧に追うことにより、コールマン自身のアートを形成している全てを見事に暴き出して見せた。現在ニューヨークに住むベヨは、ピティグリーの小説『コカイン』を原作とした劇映画を企画中。



アップリンクのホームページ/ www.uplink.co.jp

監督:ロバート・ベヨ 撮影:ウルフガング・レーナー 出演:ジョー・コールマン、ジム・ジャームッシュ、ヘイズル・アドキンス、ハロルド・シェクター
製作:ハインツ・ストウツァク、マイケル・シーバー 脚本:ウォルト・ミシェルソン 配給:アップリンク 1997/オーストリア/カラー/93分/35mm/1:1.66

今年一番のヤバい映画

4月10日(土)~23日(金)限定公開

連日PM8:45~

★前売券¥1400
劇場窓口他、市内のプレイガイドや、びあローソンなどで発売中!!

心斎橋アメリカ村 BIG STEP 4F 06
(6282)
パラダイスシネマ 1460